

終了報告

社会変動下における岩手の福祉ニーズの特性と福祉開発に関する研究

都築 光一・宮城 好郎・狩野 徹・佐藤 嘉夫・小池 隆生

1. 研究の目的

急速に少子高齢化が進行する東北において、各地で市町村合併が行われる中で、地域特性を踏まえた地域の福祉課題の明確化と支援方策の開発及び地域振興策を明らかにする。

具体的には、民生委員調査結果をもとに福祉課題の明確化を行うほか、主要な市町村を抽出して地域特性と福祉課題の類型化を行う。また地域の支援策やまちづくり対策を探るため、健康づくりと生きがいづくりをキーワードに現地調査を実施し、地域振興策の方向性を探る。これらの研究成果の下に、岩手県内におけるニューツーリズムによる地域活性化のあり方について提言を行う。

2. 研究の方法

研究活動は、次の三区分にしながら実施した。

①地域特性を踏まえた地域の福祉課題の明確化と支援方策の開発及び地域振興策を明らかにするため、東北地方の民生委員を対象に、意識調査を実施し、県毎や市町村毎の比較を行った（福島県を除く）。

②岩手においては「サトハク」（里泊覧会）やユニバーサルデザインによるグリーン・ツーリズムを今後実践していくためのプログラムの作成などを検討した。また岩手県西和賀町で実施されている「健康づくり大学事業」を体験するとともに、本事業を支援している社団法人民間活力開発機構の担当者、西和賀町の商工労働課職員を対象にヒアリングを行い現状と課題を把握した。

③青森市における野宿生活経験者の実態および岩泉町における生活困難層の実態について調査した。

3. 研究の成果

①民生委員調査に関しては、岩手県の地域福祉課題の動向を明らかにするため、既に実施した平成の合併の前後に当たる2005年のデータと比較できるように、2008年に県内の民生委員全員を対象に調査を実施した。

調査にあたっては、福祉課題全体に亘って調査した項目と、民生委員の担当区域、市町村域、広域別に圏域を区分して調査した項目とに分けた。その結果、小単位地域における対話訪問を兼ねた見守り活動や、介護者への支援などが課題として浮かび上がった。また今後の過疎化や少子高齢化の進行に伴い、デイサービスセンターの充実や福祉施設の整備が必要とされ

るほか、日常生活においては、冬の生活の支援や日用品の確保に向けた支援が必要とされる結果となった。こうした背景には福祉分野だけでなく、保健・医療や地域産業の維持が困難な状況も垣間見える結果となった。

②地域活性化を目指した岩手県でのニューツーリズムのあり方についての基礎的知見を得ることを目的として研究を行った。また、ニューツーリズムを活用したビジネスモデルの検討や、ユニバーサル・デザイン（UD）の視点からもあわせて検討した。グリーン・ツーリズム：岩手県遠野市、秋田県五城目町等の先進地での調査を行った。「教育型グリーン・ツーリズム」が地域活性化に有効であることが分かった。また、自動車学校、「一社一村運動」との提携というビジネスモデルに焦点をあてた。また福祉観光：福祉拠点が持つ資源、たとえば人材、作業、本人活動、施設、周辺の施設、自然環境が観光資源になり得ることを明らかにした。また、UDやバリアフリーを考慮したツーリズムのあり方を考察した。ヘルスツーリズム：温泉を活用したツーリズムの継続的調査研究に加え、森林セラピー、癒し観光、スピリチュアリティ観光という新しい観光振興について可能性を示唆した。

③青森市及び岩泉町における貧困に関する調査研究については、東北圏域における生活困難層の実態把握を、青森市と盛岡市の野宿生活者実態調査に基づき行った。青森市と盛岡市併せて20名に対して詳細の聞き取り調査を実施し、現在の状態へ至る経緯や暮らしの状況をインタビューし、調査結果を整理、福祉政策課題を明らかにする作業に着手した。また福祉事務所の担当者を対象に、野宿生活者数、野宿生活者のイメージ、野宿生活者の問題の要因について調査結果から明らかにし、今後の行政対応のあり方について、それぞれの担当者が考えている内容を考察した。

4. 主な研究成果の発表等

都築光一「岩手県における地域福祉課題の動向に関する調査研究」岩手県立大学社会福祉学部紀要第12巻第2号、2010年3月

都築光一、細田重憲、杉岡直人、吉田渡、李忻「東北4県における地域福祉課題の動向について」厚生指針第57巻第15号、2010年12月、厚生統計協会

小池隆生「ホームレス問題を「地域」という文脈で把握する」『ホームレスと社会』VOL.1.2009年10月号明石書店